

## 夢広がる深大寺・佐須地区の里山 ~ (仮称) 調布の里山・水辺再生活用事業検討会 ~

この検討会は、調布環境基本計画の「豊かな緑・水・景観を守り育てるための取組」のモデル事業を深大寺・佐須地区で実施するにあたり、公募市民と環境基本計画策定委員が集まり、学習、意見交換、考え方の整理等を行っていくワーキングの場です。

第1回目 7/26 につづいて、第2回目 8/22 (火) には、早くから里山の環境保全に関心をもたれ行動もされてきた、水辺の生き物や環境の研究者・淡水魚の専門家である君塚芳輝さんを講師にむかえ、興味の尽きない夢広がるお話を伺いました。特に、今すぐできることと、中長期的に実施されるべきことを分けていこうというお話を聞けて、大きな夢を描きながらも現実的な諸施策の実行に向けての今後の行動の見取り図がイメージでき、元気をもらいました。

次回(9月)は東京でもっとも標高の低い位置にあるわさび田や歴代職員の方々の努力で実現された本来の雑木林や水生生物を見

都立農業高校神代農場(深大寺南町)



ることができる都立農業高校神代農場の見学が予定されています。(報告: 小林冬樹)

### 短期目標の事例

- ・湧水地下水が流れる用水の水は大切な資源、下水に捨てるのはもったいない  
野川にきちんと落すようにしよう。
- ・高速道の照明灯は、自然広場付近の生き物にとっては光害となる  
害を少なくする処置はすでに他地区の事例では実行済、あとは関係者の努力のみ。
- ・学校に隣接する用水の流れは、子どもたちにとって非常に魅力的な学習資源である  
基本は水路の蓋を取り除くこと、大工事でもできる。

### 長期目標の事例

- ・水中小動物の絶滅危惧種も生息する深大寺・佐須の谷戸の自然環境を本格的に回復するには、高速道造成時にこの谷の南半分の水辺を埋めた土砂を取り除くことが必要だ。
- ・取り除いた土砂は調布飛行場周りに造成中の公園の地形造成に使うなど工夫が出来る。
- ・都内でも希少な存在である、水源を持った谷戸は調布の宝。農業との関連の深い田んぼや水路を守っていくために、市民・行政の知恵を集めて実行していこう。

## 調布の自然 里山編 今年も元気な雛の巣立ちがありました

**アオバズク** キジバト大でホッホッと鳴きます。早朝観察に行くと付近には餌のガの羽がたくさん落ちていました。市内の天神様にある大きなシラカシの木の枝で、四羽のヒナが両親に付き添われて枝にとまっています。うち人見知りをしない一羽が地上近くの枝に止まり独特のかわいいしぐさをみせてくれるたびに、ギャラリーから「カワイイ」の声が。天敵のカラスはギャラリーに恐れをなしたのか近寄らず無事に巣立っていきました。来夏もかわいい雛がみられますように。カラスに追われる幼鳥(下)



アオバズクの幼鳥

### チョウゲンボウ

体の上面全体が赤っぽい小型の隼類の鷹で、ヘリコプターのようなホバーリングが得意。多摩川に近い団地で今年も繁殖したが、ここでもカラスの攻撃を受け、早朝から「キーキー」と鳴きながら空中戦を繰り広げていました。早く一人前の鷹になって大空を飛びまわってほしいものです。(環境モニター 里 厚雄)



# 水のお話 田んぼの学校 番外編

## 水を移りすむ生き物たち

7月30日、「田んぼの学校」では、子供たちと一緒に総勢20名程で「佐須の田んぼと用水の生き物観察」を行いました。

今年は、採集できた生物の個体数は多くありませんでしたが、ホトケドジョウ(前号4P参照)は確認できました。先生の話によると全体に数が少なかったのは入梅、梅雨明けが遅れたのが主な原因であろうとのこと。この時期に見られるはずの生物が、水不足により十分に繁殖できず、生育が遅れたためと考えられます。

先生は、観察会のまとめに、「生き物たちは本質的に繁殖できる環境を求めて移動し、生息場所を広げていく。いろいろな生き物たちが、神代農業高校から野川までの短い用水の間に見られるのは、水温、流速、広さや水量、川底の質(石や水草、砂利、土等)そして水質などと、ここが水辺の環境の多様性に富んでいるから」と話してくれました。

最初に「水」にやってくるのはアメンボだそうです。そして土の中からか、それとも土埃とともに漂ってくるのか、必ずアオコが発生し、カイミジンコの仲間が湧き出てきます。多く生き物たちの生息場所は水つながりです。田んぼにはイトミミズがいました。ミミズは土中の生き物ですが、やはり水とのつながりがあります。ミミズやイトミミズは、人が堆肥を作るのと同じように田んぼや畑に、とても

有用な働きをしてくれています。多くの土壌生物や菌類などとともに、ミミズは落ち葉や泥状の有機物を食べて分解します。糞(ふん)はさらに微生物によって無機物化され、やがて植物の養分になります。それらが水に溶け、雨水によって用水に流れ出し、田畑を潤します。特に水田は、上流の分解者や水田の中の生物が多いほど、水中の養分が豊富になり、稲の生長を助けます。

この日は気候などの環境の変化に大きく影響を受けながら増減する生物の、危うさとたくましさの両面を見ました。水辺の環境と生き物のつながりにも改めて思いをめぐらす数日となりました。(こんどう)



ガムシの幼虫と成虫にみんな注目。「この虫も懸命に生きてるんだネ」 (たんぼの学校観察会)

## 里山の保全 ~ 市民のうごき 8月

### カニ山の会

8/12(土) 参加者9名

今月もシュロの伐採と笹刈りをした。北側は大分管理状態がよくなってきた。東樹林の南斜面下の高木が密生して真っ暗なところにキツネノカミソリが咲いていたが花



色が薄い、もっと光が必要。

蜂に刺された人が出たが、毒を吸いだす器具と消毒薬を持っていた人がいて役立った(江刺)。(写真:鍛冶)



花盛りのオニドコロ

### 人間樹林の会

8/20(日) 夏休みのせい参加者が5人のため、はじめに話しあいをしました。7月の緑と公園課主催の国分寺崖線緑地整備の意見交換会で樹林地入り口道と民家跡のコンクリートのはがし、井戸ポンプの復活、民家との境界柵の設置などを提案したことを報告し了解を得ました。今後、具体的な事業計画の策定と地域住民との意見交換などが予定されています。



ヤブランについて セミの抜け殻

### ジョロウグモの巣網



た葉を伸ばしていたのは驚異です。また、林内はジョロウグモの巣が大威張り状態でした。

花は雑木林広場をはじめ昨年からヤブランが目につきます。ハエドクソウ、ミズヒキソウ、駐車場そばのクサギが盛りですが、花の匂いが・・・。ヤブミョウガは実がついてきています。今年は残念ながらヤマユリは咲きませんでした。(安部)



クサギの花

## 環境保全課の窓

### こどもエコクラブ・カニ山デイキャンプ 8/5(土)、24人が参加

朝から気温30度を超える猛暑。講師からはこまめに水分を補給するよう注意があった。キャンプ場の木立のさわやかな涼しさにホッとしつつ、まずはパン作り。(写真1-2) 生地を寝かせておく間「火起こし」とりかかる。小枝を集めかまどに。三角に積み上げ空気の通り道を作ると、着火するだけで風を送らなくても火に勢いが生まれる技を体験。パン焼きは竹棒の先に生地を巻きつけ、遠火にかざす。15分ほどでこんがり色がつき、カニ山に焼きたてパンの良い香りが漂う。サポーターの方々は調布産のトマト、ズッキーニ、ナスなどを使って具沢山の野菜スープ作り。これが大好評。昼食が済んだら標本にする蝶やトンボを捕まえに行く。標本作りはまず、昆虫の胸の部分を指で圧迫して気絶させる。次に胴体に虫ピンを刺して標本台に止め、羽根を形良く広げてテープで押える。こどもたちはおっかなびっくり、かわいそうという気持ちも混じる。しかし細かい作業に苦労しながらやがて立派な標本が出来上がると、講師やサポーターに「この蝶はなんていう蝶？」と元気に質問。講師から「どんな場所にどんな虫たちが生きているかを調べて証拠を残すことは大切な仕事」と教わる。夏休みの一日を調布で自然体験したエコクラブの子どもたち。参加者の中から未来の昆虫博士が誕生するのでしょうか。(環境保全課：早野陽子)



集中力!



こねる感触を覚える-1



うっかり火に近づけすぎると焦げてしまう...-2

### こぼれ話

先日、深大寺五差路わきの空き地で草刈をしている男の方がいました。ここは植物公園の管轄なのでしょうが、まだあまり整備されておらず、色々な花の種が撒かれたり、単に草刈がされているだけだったりの場所です。その時はオギやチガヤと思われる草で鬱蒼としていました。訊ねてみると「乗馬倶楽部の馬にやる」とのこと。そう言われてみれば、まっすぐ伸びた葉がなんともおいしそう。

昨年は農家の方がチガヤをていねいに切りそろえ「お盆の飾りに使うのです」とおっしゃっていましたし、それ以前にオニノゲシの綿毛を摘んでいる方には「朱肉の材料になるのですよ」というお話も伺いました。隣の都市森の丘では春になるとツクシやヨモギを摘む方がみられます。きちんとした公園では1本の草を採るのも気ひけますが花壇などではないこういう自由な空き地、素敵です。(かじなおみ)



## 里山の保全 ~ 市民のうごき 8月~ 9-10月

### ちょうふ環境市民懇談会・運営会議

8/7(月) 18:30~21:15

場所：市文化会館たづくり302

お盆の時期と重なるので1週繰り上げて日程調整し9名出席。

(主な議題)

1. 市が行う環境学習支援のルール作り(案)が出された。支援の内容は主に、活動の場の提供・その便宜の供与・物品の貸し出し・情報提供など。各活動グループに持ち帰り要望提案を出していく。次回の懇談会でも意見をまとめていく。

2. 10/29の保全活動グループの活動紹介する野外イベントの名称を決定した。

歩いて見て食べて知る、雑木

### 林の恵み~・調布そぞろ歩きカニ山周辺/調布産新米を食べる

・雑木林の様々な良さをアピールしようということです。調布産野菜鍋の予算は1人500円とする。「そぞろ歩き」と体験イベントは一体のものとして10/5号市報で募集する(募集枠30人)。(役割分担)

- ・全体責任：江刺
- ・「そぞろ歩き」担当：里
- ・「新米を食べる」担当：近藤
- ・カニ山での体験イベント担当：小島

各担当者が担当部分について詳細内容・分担案を作り次回調整する。次回、全体の進行スケジュールの時間割などについて整理する。各活動グループとの連携連絡についても検討必要。

### 3. 情報交換

・モデル事業(調布の里山・水辺再生活用事業検討会)の進行状況や市内の小学校で計画中のピクトづくりのことなど、行政と市民双方から情報提供を行った。

・入間町と若葉町の緑地について第1回国分寺崖線緑地整備意見交換会入間町は7/19、若葉町は7/21に実施。第2回は8/20入間町、8/25が若葉町。場所・時間など詳細を環境市民懇談会メーリングリストで流す。(報告：江刺)

次回 9/11(月) P.4 参照

自然だよりの編集をやってみたい・手伝ってみたい方募集中です

メールで原稿をやり取りし、ワードで版下をつくります。初心者でも大丈夫。ご連絡下さい。(発信：かじ&えさし)

## 市民活動カレンダー &amp; おしらせ

## 全ての会で新メンバー随時募集中！

## 環境モニター

次回予定 9/2(土) 10:00~12:00

集合場所: 深大寺自然広場、野草園横

内容: 樹林地の植物観察

持ち物: 図鑑など 虫除け対策の服装

問合せ: 環境保全課 042-481-7086

## カニ山の会

9/14(土) 10:00~12:00

集合場所: 深大寺自然広場、野草園横

内容: シュロ伐採、笹の下刈り、

定例活動日: 第2土曜。初めての方も作業ができる服装(必ず長袖・長ズボン)で、直接集合場所へおいで下さい。

## 若葉町3丁目第3緑地-保全活動

9/10(日) 10:00~12:00

集合場所: 入間地域福祉センター

内容: 樹林地の整備

第2日曜を活動日としています。

連絡先: 緑と公園課 042-481-7083

## 人間・樹林の会

9/17(日) 9:30~12:30

集合場所: 入間地域福祉センター

内容: 保全活動

原則毎月第3日曜に活動しています。

問合せ: 環境保全課 042-481-7086

## 凸凹山公園ワークショップ

9/24(日) 10:00~12:00

集合場所: 現地(若宮八幡向かいの緑地)

内容: 草刈、斜面の階段作り

定例活動日: 第4日曜

連絡先: 緑と公園課: 042-481-7081

ブログ紹介 <http://blog.livedoor.jp/fgr/>

凸凹山公園ワークショップで検索できます

## 会議日程

## ちょうふ環境市民懇談会・運営会議

9/11(月) 18:30~20:30

たづくり 302 会議室

内容・10/29の秋のイベントについて  
・環境学習支援事業のルール作りについて  
会議にはどなたでも参加できます。

## 調布の里山・水辺再生活活用事業検討会

9/22(金) 時間・集合場所未定

内容 現地視察(深大寺・佐須地区)

## 調布市環境保全審議会

9月27日(水) 10:00~12:00

市役所4F 議会棟 全員協議会室

**傍聴可 事前に環境保全課へご連絡下さい**

## 平成18年度 雑木林塾開講

雑木林塾は、市内に残る雑木林の現状を知り、維持管理に必要な知識や技術を習得し、市民が主体となった雑木林保全活動を推進することによって、調布市の貴重な自然環境を次の世代に継承していくことを目的としています。

日程 9/10・10/15・11/11・12/10・1/7・2/4・3/4

内容: 講座・体験学習・ワークショップ  
シンポジウムなど

お問合せ 環境保全課まで

tel 481-7086 fax 481-7550

e.mail [kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp](mailto:kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp)

## 編集後記

もう秋空。夜寝る前に窓を閉めても、虫の音がにぎやかに聞こえてくる。道路わきの植え込みにいるのですね。

そういえば今年は珍しく夏バテしなかった。目標の1万ウオークは達成率50%を超えない程度だったが、バレエのプレリウド教室に週1回通い始めたのが効いたのかも知れない。もち、かに山の会の「雑木林の草刈り」に出かけたのもよかったはず。イヤ休みも多かったって? はい。やっぱり気持ちの問題かしらん。何にてもありがたいことです (編集当番: 江刺益子)



「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

## ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境保全課 tel 042-481-7086

E-mail: [kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp](mailto:kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp)

~調布市ホームページでカラー版がごらんいただけます~

市公式HP [くらしのガイド](#) 環境 環境学習 自然だより